令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【片柳中学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1) 言語能力：根拠を明確にしながら、自分の考えを論理的に構成し、相手に分かりやすく伝えることができる資質・能力 (2) 自己調整力：自らの学習状況を客観的に捉え、見通しを持って計画的に学習を調整しながら粘り強く取り組むことができる資質・能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1) 複数の情報を適切に関係付けたり、根拠を明確にしたりしながら、自分の考えを文章やプレゼンテーションで論理的に説明・発信する学習活動の充実。【各学期の中で1回以上】 (2)「スキガクタイム・デザインタイム」における振り返りシートや、資質・能力を自己評価するレーダーチャート等を活用し、自ら設定した学習計画の達成状況やに日々の学習を振り返り、改善を図る時間の設定。【毎月】 (3) 教科で習得した知識・技能を実社会の課題解決に活用し、学びの実感を高める「教科等横断的な授業（コラボ授業・STEAMS教育）」の実施。【年2回以上】

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（おおむね達成） C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	(1)言語能力に関連する問題において、国語の「表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる」問題は、全国の正答率を大きく上回ったが、数学の「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる」問題は、大きく下回り課題が見られた。数学の解答類型をみると、必要とする根拠が足りなかったり、無解答率が全国くらべて大きかったりしている。 (2)自己調整力と関連する生徒質問「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか」と「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」における肯定的な回答は、ともに8割以上であった。 (3)「将来の夢や目標を持っていますか」という項目において、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の肯定的な回答は全国や県に比べて上回っているが、「当てはまる」の回答は下回っている。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	(1)与えられている情報から、必要な根拠を正しく読み取ったり、相手に論理的に伝えるための説明力に課題がみられる。 (2)多くの生徒が、分からないことや課題に対して、自分で解決しようとする姿がみられる。 (3)将来の夢や目標を意識してはいるものの、明確な目標として強く自覚するまでに至っていない生徒が多く、目標に向かって主体的に粘り強く努力しようとする意欲の希薄さに課題がある。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※） B	(1)については、全国学力・学習状況調査の結果から見えた課題を基に、授業を通して、論理的に説明する学習活動を一層充実させていく。 (2)(3)についても、引き続き実施していく。
⇓		
学力向上策の見直し	（変更なし）	

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（おおむね達成） C 6割未満（あと一歩）